

---

# 恋姫三國無双

KAERU

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋姫三國無双

### 【Nコード】

N1466Z

### 【作者名】

K A E R U

### 【あらすじ】

いったいどうなるのか？

予言からはじまります

## エピソード（前書き）

恋姫の二次創作になります天のお使いが三人になりました、めっちゃくちゃです。

作者は恋姫を知らないのでキャラ設定もめっちゃくちゃ、いったいどうなるのか？

話しは予言からはじまります。

初めての投稿なので、もし読んで下さった方は感想やアドバイスをなんでもいいのでください。

## エピソード

～お告げ～

星の輝きの下、はるか北の空より、三つの星が舞い降りるであろう。

「一つは仁のお使い」

「白銀の衣を身に纏い、正しき心と意志を以って、  
民を導く光とならん」

「一つは知のお使い」

「あふれる知力はとどまるところを知らず、あらゆる知謀と策略を  
用いて、

未曾有の危機を退けるだろう」

「一つは武のお使い」

「その力に優る者無く、類い稀なる武を以って、不毛の戦を終わら  
せるだろう」

「これら三人のお使いを従えし者、名声と共に国を成し天下無双の  
覇者となるであろう……」

## エピソード2（前書き）

主人公紹介

北郷一刀 お馴染みの人？

オリ主

ダンクローズ

天才高校生

満木拳 みつるぎ けん

強い 今のところ謎

## エピソード2

聖フランチェスカ学園

その剣道部に一人やたらとモテるやつがいた

彼の名は北郷一刀 名門聖フランチェスカ学園の学生である。成績は中の上

見た目はカッコイイしなんだかんだ中身もカッコイイなのに彼女はいないのは彼が女泣かせの鈍感野郎だからである。

一刀「あゝあ練習か・・・たるいなあゝ」

A「お前主将だろが！しっかりしろよ、今年は県優勝狙ってるんだからな！」

一刀「わかってるって まかせときな 主将として責任は果たす！」

A「どうかな この前だって応援に来た女の子達から黄色い声援浴びて 鼻の下が地面にえぐりこんでたくせに」一刀「いやどんな状況？って ふざけんな！俺はそんな特殊人間じゃあねゝ！」

A「ハイハイそうですよねゝ一刀サンは我が剣道部一の実力者ですもんねゝソナナコトあるわけないですよねゝ」

・・・ムカつく  
一刀

「そついえば昨日クラスの女子から手紙もらったなあたしか#ちゃんだっけ？」

A「ままさか・・・#ちゃん？！  
アアババババババババババ  
ぶくぶく

一刀「おおい！しっかりしろよおい！？」

「刀」しまった #ちゃんはまずかつたな あとで謝らなきゃ  
#ちゃんはAが好きなのに あいつアワ噴いてたけど大丈夫か  
? ってやばい遅刻だ! 乱取りしなきゃ・・・って・・・」キユ  
ーン

「刀」なんだ? この鏡  
なんか光って カチ

22###00!!!」

「ダン」クローズ」

アメリカロサンゼルス近郊小さな家

ここに一人の天才高校生がいた 彼の名はダン」クローズ 両親は  
いない。

幼い頃に事故に遭い家族を失った 以来彼は母方の祖父に育てられ  
今に至る。

学校での成績は下の方である。ブラウン髪で身長は低く、童顔なの  
でよく小学生と間違えられるほどだ

ダン」じいさん 何とかしてくれよ! エンジンがいかれちゃった  
これじゃ学校に行けないよ。」

じ「やかましい! 学校何て行ってねえだろうが! また探険とか言  
ってどこぞをほったき歩いとるんだろ」

ダン「歩いてないよ 走っているんだ」

じ「やかましい！屁理屈をゆうんじゃね〜?????だいたい、エンジンの仕組みぐらい知り尽くしておるだろうが！」

ダン「だから直してくれって頼んでるんだ。直す所教えるから」

じ「うちはパン屋だ!!」

ダン「そんなこと知ってるよ？ 大丈夫 じいさん？」

じ(?????????)「直し方分かるならお前が直せ！」

ダン「そんなこと出来るかあ!! 僕の非力さをナメるなよこの前なんて階段を一階から二階まで駆け上がっただけで太ももちぎれるかと思つたよ。実際今若干筋肉痛だよ？そんな僕が重い工具なんて使えると思う？ エッヘン」

じ「エッヘンじゃねえ！ダン！もう少し真面目になつたらどうだ？ そうすればきつとお前の両親も」ダン「親の話しは止めてよ!!!」

じ「ダン……」

ダン「……もういいよ、ゴメン怒鳴って」じ「いや……」

ダン「それじゃ僕は行くよまたね」



ダン「はあーやっちゃったよ・・・早く謝ろうトテトテ  
ンカラン

カラ

ビクッ

ななんだ鏡が、びっくりした」

キューン

ダン「え！ ひっ光ってる

キューーン

う うわ~~~~~!!?」

〈みつるぎけん  
満木拳〉

「誰だ そこにいるのは・・・出てこい カチヤ

・・・鏡・・・か？ キューン !なんだ!

キューーン

くっ 前が見え・・・」

三つの星が舞い降りる

## エピソード2（後書き）

ようは前書き見ればとくに見る必要ない駄文です。  
三人がトリップしました。次回いよいよ恋姫の世界へ

## それぞれの出会い（前書き）

オリ主説明 追加要素

みづるぎ けん  
満木拳

身長高い 180くらい

武器：棒（丈夫）

戦い方：基本的には棒術で戦いますが、素手でも戦います。（柔道  
とか拳法）

## それぞれの出会い

〈邂逅〉

三人は舞い降りた。  
そこは切り立つ一枚岩  
しかし三人は出会わない。

〈満木拳〉

「……………つく　ここは……………どこだ？  
……………（夜か　しかし知らないところだ　たしか鏡から光が出  
てそれで？……………）」

「あつちに森があるな、行ってみるか」　　スタスタ

スタスタ　（さっきは荒野だったが森の中は結構豊かだな……………こ  
こはいったい？あの鏡には人を移動させる力でもあったのか？それ

ともただ単に連れ去られただけか？気絶していたようだし……しかし、だとしたら何のために？……！)

ガサガサツ

ワイワイ ガヤガヤ

男達「へへっまた一つ村を潰してやったぜ

戦利品もたつぷりだ

ジャラジャラ

これで当分遊べるぜ！

ふんっ 村の女共め！思い知ったか！俺達をナメるからこうなるんだよ！

カエシテクダサイ

男「ああっ？」

女の子「返してください！それは村の人達の大事な宝物や食糧です  
あなた達がむやみやたらに奪って良い物ではありません！」

男達「お おい！女がなんか言ってるぞ？

な〜にびびってやがる 平気だ “この女は弱い”

それに檻の中だ

そ そうだよな へへっ「拳（見るからに盗賊……だな 村  
がどうとか言っていたが？ ん？）

キヤア！

ドサツ！

男達「あ 頭きた！

お 襲ってやる！」

女の子「や やめてください！どうしてこんな酷い事をするのですか？！」

男「どうして？どうしてだと！ まただ！ またそうやって女

は男をばかにする！ もう うんざりだ！！！」

女の子「ばばかにしてなどいけません！こんなことをしては、  
いずれ捕まってしまうですよ！」

男「捕まるわけないだろ、ここの領主は無能を絵に描いたようなやつだからな！」女の子（！！！）

拳（あいつら相当女に恨みがあるようだな、どうする？盗賊なんて  
そう珍しいものでもないが・・・しかしなんだあの格好は、黄色い  
鉢巻きや黄色い頭巾、シンボルか何かか？      ！！マズイ！！）

男「殺してやる！」      男が突然剣を抜く      女の子「！イヤヤ！  
助けて！詠ちゃん！」

ドゴオオオ！

男「ぐはあ・・・ドサツ

拳のこぶしが盗賊の頭にめり込んだ

男達「ててめえ！いきなりなにしゃがる！」ウオオオオオオ

男達が数人殴り掛かるが、拳は一人目の男の足を掴み片手でほうり  
なげた

ギヤー      途端に男達は吹き飛ばされた      残った一人が持っている槍  
を構える

男「お大人しくしゃがれえ！」      男の構えは素人そのものだった  
      よく見ると服は所々破け      槍は刃こぼれがひどい      拳「・・・  
もうやめろ」男「うるせー！お前もぶつ殺してやる！      拳は背負っ  
ていた武器を抜いた      男「そんな棒つきれで

何するつもりだ！うっウオオオオオオ！」

男はむやみやたらに槍を突いてきた

拳は槍をいなし 側面に回り込むと、持っている棒を振り下ろした。  
バキ！

男の槍は根本から折れてしまった。

男「うわあ！な 何で男なのにこんなに？」拳「おい」男「ひい  
！」

拳「失せる！！」ギン！！ギャー！ 化け物ー！  
男達は逃げて行った。

女の子「あ あの一ありがとうございます 助けて下さって？」

拳「なあ」「はい」

拳「ここは何処だ？」

女の子「・・・はい？」

「何処だと聞いている」

「こここは擁州の西端、隴西省臨兆県北の山岳地帯です。（フエ

エこ 怖い顔？）「拳」・・・意味不明だな、聞いたこともない  
地名だぞ、まさか・・・」

「おい！」「は はい？」拳「今は西暦何年だ？」

「え あの？今は中平6年ですが？」

拳「・・・」

女の子「あの」「なんだ？」「貴方様のお名前は？」拳「・・・俺  
は」

「大変！お怪我をしています」「は？ ああこれは」「すぐに手  
当を？ そうだ！これで「ビリビリ

「お おい」



女の子「これでよし？痛くないですか？」

拳「ああ 手際いいなお前 ありがとう助かった。」

女の子「い いえそんな／＼」

拳（さっきの戦闘での傷でわない・・・いったい何処で？）

それぞれの出会い（後書き）

先ずは満木が行動します。女の子はまあ わかるよね

## それぞれの出会い2（前書き）

ダンクローズ追加要素

武器：特に無し

容姿：見た目子供

中身 子供

ブロンド髪

目 一応黒予定

少年です。しかし16歳そんなやついねーよ！は  
勘弁してください？

## それぞれの出会い2

く邂逅2く

くダン「クローズSide」

朝日が上り朝露が冷たく凍みる中 彼は目を醒ました。

ガバツ「うああああアアああああアアあつ

こ

ここは？」

ダン「こ こんな景色見たことないや？スゲーー！」

彼は冒険心あふれる少年のような、見た目通りの幼さを持った青年だった。

ダン「うわつでつかい岩だなあ、びっくりしたよ……ん何の音？」  
パカラッ パカラッ

女「み〜つ〜け〜た〜〜〜あああい」

ダン「ギャ〜〜〜！」

ガシッ

女「いただき？」ダン「た 助けて??助けて〜」 ジタバタ

女「ああ〜もつ、うるさい！暴れないの！」

ダン「貴女は誰?ここは何処?ぼくは一体これからどうな バ

キン げふん」女「ちょっと!何するのよ、冥琳、 気絶しち

やっただじゃない!」

冥「何言ってるのよ、雪蓮」！！いきなり走り出したと思ったら、いきなり小さな女の子を誘拐するなんて、何考えてるのよ！

ほら？今のうちに元の所に置いて来なさい！」

雪「何勘違いしてるのよ、人を犯罪者みたいに」

冥「犯罪者じゃない！どう見ても！」

雪「違うわよ冥琳、この子よ私達の捜し物は？」

冥「！！まさか・・・この子が？」

雪「ええ 間違いないわ！落ちてくるこの子をハッキリ見たもの！」

冥「でも？、」

雪「冥琳、私が信じられない？」

顔を限界まで近づける 冥「そ、そんなことは／＼？」雪「そ、なら決まりね？さあ船まで連れて行くわよ！」

それぞれの出会い2 (後書き)

ダンさんは連れ去られました。

### それぞれの出会い3 (前書き)

北郷一刀 追加要素

武器：竹刀（折れるけど） 服装：例の制服

スペック：

勝手に剣道やってる事にしちゃいました。でもまあそこそこの実力です。

てゆーか普通の高校生

それぞれの出会い3

く邂逅く

太陽は天頂に達した

外気は温められ 大地が渴く そんな中彼は目覚めた

く北郷一刀Sideく

ギャくくくく!

いただき?

一刀(・・・暑い・・・あつつい)

一刀「・・・んっ・・・なんだ?つて、な!なんだここは?!部室棟は?学園は?なんでこんな所に?」

一刀「まてまて落ちて着け、し、竹刀は有るな?服は、学園の制服の



まだまだし、・・・たしか、Aと喋っててAがアワ噴いて いやいや そんなことはどうでもいい！ たしか、鏡が落ちてて その鏡が光って それから 「おい」 へ？」

男「てめえ高そうな服着てるじゃねーか、よこしやがれ！」 バシッ

一刀「わ！いきなりなにすんだ！誰だよあんた！」

小男「誰だとは失礼なやつすね、兄貴を、俺達を知らないと言わせねえつす」

太男「そうだぞあゝゝ、俺達は泣く子も黙る黄巾軍の一員どうあゝ」

男「そして俺様は黄巾軍の大幹部、さあ身ぐるみ全部置いていきな！！」

ドヤゝゝゝゝゝゝ^^

一刀「・・・・・・・・・・」

黄達「・・・・・・・・・・」

小「兄貴、あいつ黙ってやすぜ？」

兄貴「フッフ、怖くて声も出ないのよ ドヤ^^」 太男「あゝ兄貴ゝあいつ逃げたよゝ」 「何?!」

スタコラ スタコラ

一刀「なんかよく分からんが、とりあえず逃げとけ!!」

マテマテー

一刀「あ、追いかけてきたって！馬ゝゝ!!?」

一刀追いつかれる

兄貴「ばかめ！逃げ切れれると思っただか！」

小「あ、兄貴く待って？」「ぜーぜー

太「ぜー、ぜー？あ、兄、？き」

兄貴「なんだなんだ？情けねえなあー」

一刀「くそっ！」 シュー

兄貴「ああ？そんな木の棒で何しようってんだ？おいおまえら、やつちまえ！」小男「おらく！」

サツ

一刀「ヤアア！」ブン！

小男「くはあ！いてえ」

太男「ウオオオオオオ！」ぶん！

一刀「うわっ！」 バキ！

竹刀、折れる

兄貴「ハハハハハハ、これまでだな、小僧！」

一刀「く、くそっ！なんとか防御したけど、竹刀が」

兄貴「さて、身ぐるみ置いていきな！そうすれば、命は助けてや」

まてまてまてくくくくくく！！「た、誰だ！！」

？「我が名は関羽！世が乱れる今、同じく民を按じる心を持った姉妹と共に、世の平定の為旅をしている！弱き民を脅かす不貞の輩め！我が青龍堰月刀のサビとなれ！！」 ドン！



一 刀「それじゃ、整理するよ」

劉「はい」

一 刀「君達の名前は劉備玄德、関羽雲長、張飛翼徳、」

三人「はい（そうなのだ）」

一 刀「君達はこの戦乱の世を治める為に、いろいろな所を旅してきました。」

三人「はい（そうなのだ）」

一 刀「そんなある日、ある噂を聞いた。内容は、この戦乱の世を終わらせるため、空から天のお使いがやって来る。」

三人「うんうん（なのだ）」

一 刀「その夜、星を見た。噂通り三つの星が北の方に落ちるのを見た。」

鈴「噂ではなく予言なのだ！」

一 刀「・・・とにかく、それを見た君達は急いで北を目指した。そして襲われていた俺を見つけて、助けてくれた。これでいい？」

三人「まったく持ってその通りです！（なのだ）」

関「いやー発狂なされた時は一瞬どうなるかと思いましたが、ご主人様のご理解の速い方で助かりました。しかし、さすが桃花様！！あつちに誰かいる気がする〜 とか言った時は半信半疑でしたが、

こうして見事天のお使い様を見つけることが出来ました！」

鈴「さすがなのだ！」

劉「えへへー／／／」

一刀「・・・」

（劉備玄德つて聞いたことある、たしか世界史の、・・・三国志だ！三国志好きの先生がよく話してた！。たしか、魏と呉と蜀つて国が争っていた時代だ。でも、劉備つて男だったよな？それに関羽と張飛も！どうなってるんだいったい？！）

鈴「お兄ちゃん、お兄ちゃん」グイグイ

一刀「うわっ！つて、お兄ちゃん？」

鈴「そうなのだ！お兄ちゃんの名前はなんてゆうのだ？」

一刀「俺？俺の名前は北郷一刀、君は張飛？だよな」鈴「そうなのだ！でも、鈴々は鈴々なのだ！」

劉「！そくだ、真名をまだ教えてなかったね。」

関「そうでした！ご主人様！」

一刀「えっ？俺？」

関「はい！私の真名は愛紗と申します。」

劉「私は桃花だよ？よろしくね！」

愛「さあ、ご主人様の真名を「な、なあ」はい？」

一刀「マナつて何？」

桃「真名を知らないの？」愛「なんと！！」

鈴「・・・？」

愛「真名とは真の名、則ちその者を表す大切な名の事です。むやみやたらに他人に教えるものではございません。」

一刀「そ、そんな大切な名前、俺なんかに教えて良いの？」

愛「もちろんです！ご主人様は天のお使い様で、私達を導く光なのですから！」一刀「ねえ、さつきからご主人様って言うけど？誰のこと？」

愛「な、なにを言っているのです！貴方様のことに決まっていますはございませんか！」

一刀「でも、俺はその、天の？お使いみたいな、大層なものじゃないよ！」

桃「ん〜でも、その服を見る限り予言通りだし。」

一刀「いやっ、これはただのポリエチレンの制服で」鈴「ポリエ・・・なんなのだ？」

愛「なんですか？」

一刀「いやっ？」

桃「・・・ねえ、取り敢えず私達と一緒に行きましょよ！歩いているうちに話しまとまるわ。」

鈴「おなかすいたのだー」愛「確かに昨日からなにも食べていませんね。」

桃「ね！いこっ？」

一刀「う、うん」

（取り敢えず付いて行こう。またあんな奴らに襲われるのはゴメンだ）

### それぞれの出会い3（後書き）

疲れましたかなり

小説になつてゐるのかなこれ

次はダン「クローズSide」です。連れ去られましたよねダンくん

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1466z/>

---

恋姫三國無双

2011年12月6日23時50分発行